



山田川流域の自然再生を考える勉強会



間伐と共に土留工を実施



竹を利用して里山の七夕祭り

三島フォレストクラブは、箱根西麓の森を守る人材を育てるために三島市が開催した「フォレストインストラクター養成講座」の修了生が、平成14年に立ち上げた森林ボランティア団体です。約8年にわたる活動を経て、昨年11月にNPO法人となりました。

このまま森を 放置してはおけない

三島フォレストクラブの森づくりフィールドである箱根西麓は、その大部分がヒノキの人工林です。戦前は、緑肥や牛馬の餌を取るための採草地として利用されていましたが、化学肥料やトラクターの普及により採草

地は次第に不要になり、戦後復興における木材需要の拡大により、植林地に変わりました。しかし、その後、林業は不振になり、放置された森は細い木が密集した「線香林」と呼ばれる不健康な森となっています。このまま放置してはおけないと危機感を持った三島市は、平成14年「フォレストインストラクター養成講座」を開催しました。森を守りたいという思いで応募し研修を終えた1期生を中心に仲間が集い、同年12月、三島フォレストクラブが誕生しました。

箱根西麓の森林整備

森林整備は、平成15年5月、箱根西麓の箱根山組合直轄地で始まりました。毎月第2日曜日を定例作業日とし、第4土曜日を予備日として、ヒノキの人工林をメインに、組合や個人の山主の協力を得て、間伐や下草刈



熱心に受講する森づくり研修会の参加者たち

りなどの整備を進めてきました。平成16年から行っている県行林の間伐では、水源かん養林としての機能を高めることを目指し、土留工も実施しています。また、三島市所有の竹林の整備にも、里山再生という観点からも継続して取り組んでいます。森林ボランティアの活動を楽しむ続けるためには、安全作業が欠かせません。会では、フォレストインストラクター養成講座への協力を始め、必要に応じ

て森づくり研修会を行い、技術の向上を図っています。

森の作品づくり・里山再生・森の調査活動の取組

会では、間伐材を利用した木工品や竹細工の製作にも早くから取り組み、平成18年からは森の作品づくりプロジェクトがスタートしました。プロジェクトで製作した作品は三島市主催の「馬鈴薯祭り」や「大根祭り」で展示販売を行い、会の運営に役立っています。

また、箱根西麓の森林に源を発する山田川の流域における里山再生にも、地元住民、行政、他団体と協働して取り組んでいます。流域の田や畑を潤す水源を支える箱根西麓の森は、流



安全知識が不可欠な間伐作業

域全体の環境に深く関わっています。会では、山田川グリーンツーリズム研究会のサポート側として、山田川沿いの竹林の整備や、棚田に植樹した果樹の管理などを、里山体験を楽しみながら行っています。

また、森の植生調査や相対照度の測定などを行い、結果を分析し、生物多様性を大切にする森づくりにつなげるよう努めています。

森づくりへの理解と支援を広げるために

間伐から始まった会の活動は、間伐材の活用や、里山再生など森林に連なる環境保全活動へと



伐った材を協力して運ぶ

拡大し、会員数も倍増しました。また、平成19年からは静岡県緑化推進協会、三島市農政課の後援を受けて「静岡県東部森づくり講座」を主催し、広く県民の参加を呼びかけて、森づくりへの社会的認知向上を図ってきました。

こうした実績をもとに社会的信用を高め、市民、企業市民、行政の森づくりへの理解と支援をさらに広げて、地球温暖化対策、水源かん養、災害防止、生物多様性の保全など森の諸機能に対する人々の期待に応えるような活動を行っていくと三島フォレストクラブは昨年11月に特定非営利活動法人となりました。

三島フォレストクラブ

- 会員数 62人(平成22年12月現在)
 - 森づくり活動フィールド 箱根西麓の人工林
 - 活動日 第2日曜日(間伐プロジェクト)第3日曜日(森の作品プロジェクト)第4日曜日(里山プロジェクト)第3火曜日(森の調査プロジェクト)
- ※「特定非営利活動法人三島フォレストクラブ」のホームページは2月中旬立ち上げ予定です。